

玄海町 みらい計画



令和8年2月
玄海町

CONTENTS

第1章 序論

1 玄海町について	02
1-1 玄海町の位置と地勢	
1-2 玄海町の個性と魅力	
2 玄海町みらい計画について	03
2-1 策定の経緯と目的	
2-2 玄海町みらい計画とは	04
2-3 玄海町みらい計画の特色	06

第2章 みらい方針

1 まちの将来ビジョン	14
2 分野連携による将来ビジョンの実現	15
3 KGI(目標を達成するために最も重要な指標)	16
4 土地利用方針	18

第3章 基本戦略

KGI(Well-being指標(主観指標))の見方	22
1 産業分野	23
2 教育分野	24
3 健康分野	25
4 安全・安心分野	26
5 社会基盤分野	27
6 協働・共創分野	28

資料編

31

玄海町 みらい計画

第1章

序論

1 玄海町について

1-1 玄海町の位置と地勢

玄海町は九州北西部佐賀県の東松浦半島の中央に位置し、西は玄界灘、北・東・南を唐津市に接し、遠くは壱岐対馬を見渡すことができ、雄大な玄界灘に面したリアス式の美しい海岸は玄海国定公園に指定されています。

玄海町周辺の海域には、対馬暖流の影響を受ける全国でも有数の漁場があります。沖合域は天然礁が多く、マダイ・ブリ・イカなどの好漁場で、沿岸域ではマダイ・カキ・フグなどの養殖が行われています。

また、標高100～200メートルの低い山が波状的に起伏する、玄武岩特有の「上場台地(うわばだいち)」では、豊かな大地からたくさんの恵みが収穫されます。

気候は、比較的温暖で、寒暖の差が少ない海洋性気候の特徴です。

1-2 玄海町の個性と魅力

『浜野浦の棚田』



総枚数

283 枚 (11.5ha)

お米の生産が盛んです。町のシンボル・浜野浦の棚田には、大小合わせて283枚の田んぼがあり田植えの時期には夕日が海面と水田を茜色に染め幻想的な景色になります。

『食が充実したまち』



一次産業経営体数

409 事業者 (令和4年度時点)

主に農業、畜産、林業、漁業などの一次産業に従事する事業者が409あります。玄海町の産業全体を支え豊かな食文化を生み出しており森林の保護や環境の保全の役割も担っています。

『教育に熱心なまち』



子どもたち(8年生)の公営塾通学率

77.8 % (令和6年1月末時点)

令和3年に開校した公営塾。小学4年生から中学3年生までが対象で、運営は大手進学塾が手がけます。英語教育の充実を図るため5～6年生に英語学習を導入。官民一体となり子どもたちの学力アップをサポートしています。

『人口よりも多い！牛の町内飼養頭数』



人口比

133 % (令和5年3月31日時点)

玄海・唐津地区は、漁業や農業だけでなく、畜産業も盛んな地域です。玄海町では人口よりも多い牛が飼育されているほど。その多くがブランド牛「佐賀牛」となります。

2 玄海町みらい計画について

2-1 策定の経緯と目的

玄海町では、これまで「総合計画」と「総合戦略」をそれぞれ策定・運用してきました。

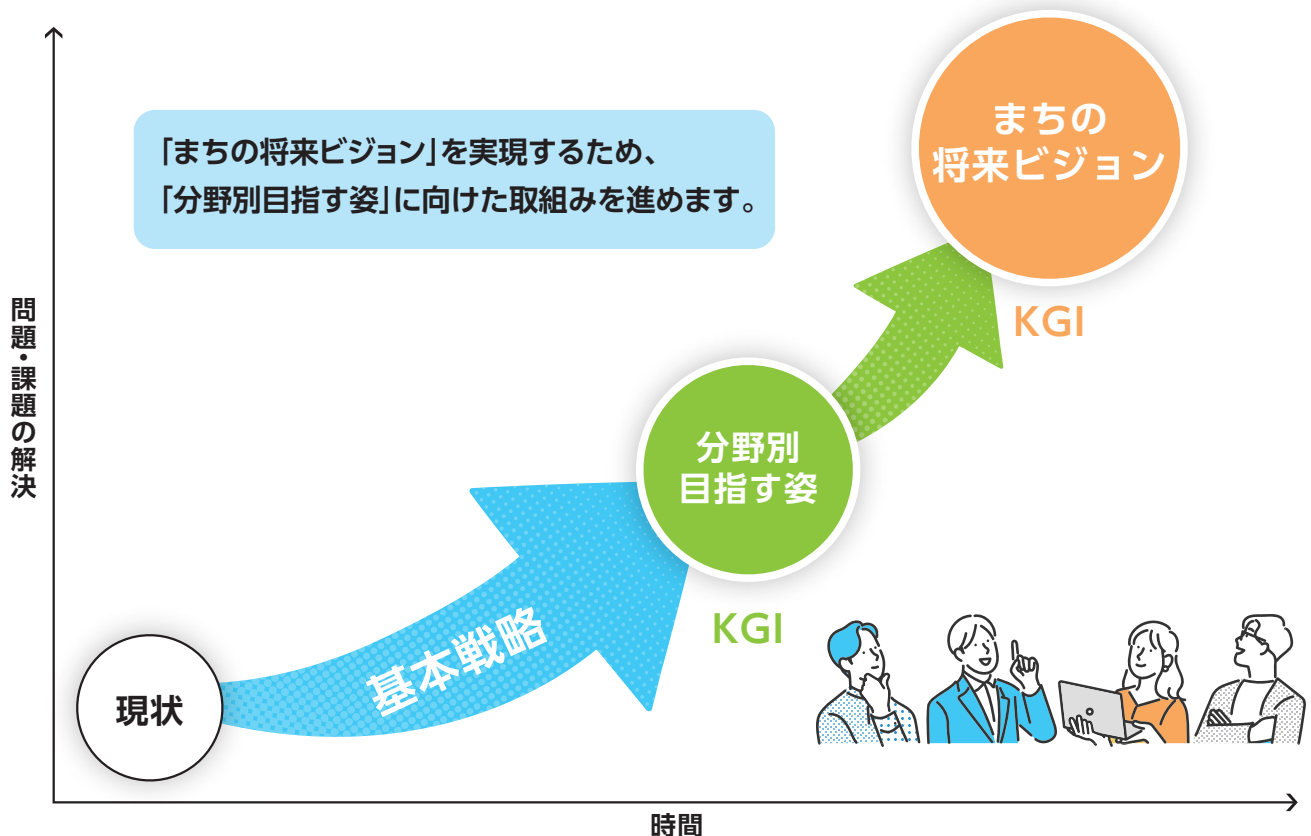
総合計画は、まちの基本的な方向性を示す最上位の計画です。将来の「あるべき姿」を描き、その実現に向けてあらゆる分野にわたる施策を総合的・体系的に整理します。行政運営の指針であるとともに、町民・事業者・行政が一体となって取り組むための共通の目標を定めるものです。

総合戦略は、総合計画の理念を踏まえながら、特に人口減少や地域経済の縮小といった重要課題に的を絞り持続的に発展していくための具体的な方向性を示す実行計画です。産業振興や雇用の創出、移住・定住の促進、子育て・教育環境の充実など地域の強みを生かした戦略的な施策を展開し、町のにぎわいと活力を次世代へつなげていくことを目的としています。

しかしながら、両計画の内容には地域づくりや人口減少対策など重複する部分が多く、施策の整理や進捗管理が複雑になるといった課題がありました。また、町民にとっても将来に向けた方向性が分かりにくい状況であったことや限られた人員・財源の中で計画を二重に策定・運用することは行政の負担となっていました。

このため、次期計画について総合戦略に統合することとしました。

これにより、町の将来像の実現と人口減少への対応を一体的に位置づけ政策の重複を避けながら効果を最大化し、分かりやすい形でまちの将来ビジョンを示します。



『みんなで一緒に玄海町の未来をつくっていくための道しるべ』です。

まちづくりは行政だけが行うものではなく、町民のみなさん一人ひとりが大切な担い手です。地域の団体や事業者、専門機関など、さまざまな人たちが力を合わせて取り組むことで、玄海町の未来をつくっていきます。

「玄海町みらい計画」は、町の“最上位の計画”です。玄海町がこれから目指す姿(ビジョン)と、その実現に向けた方向性を示しています。

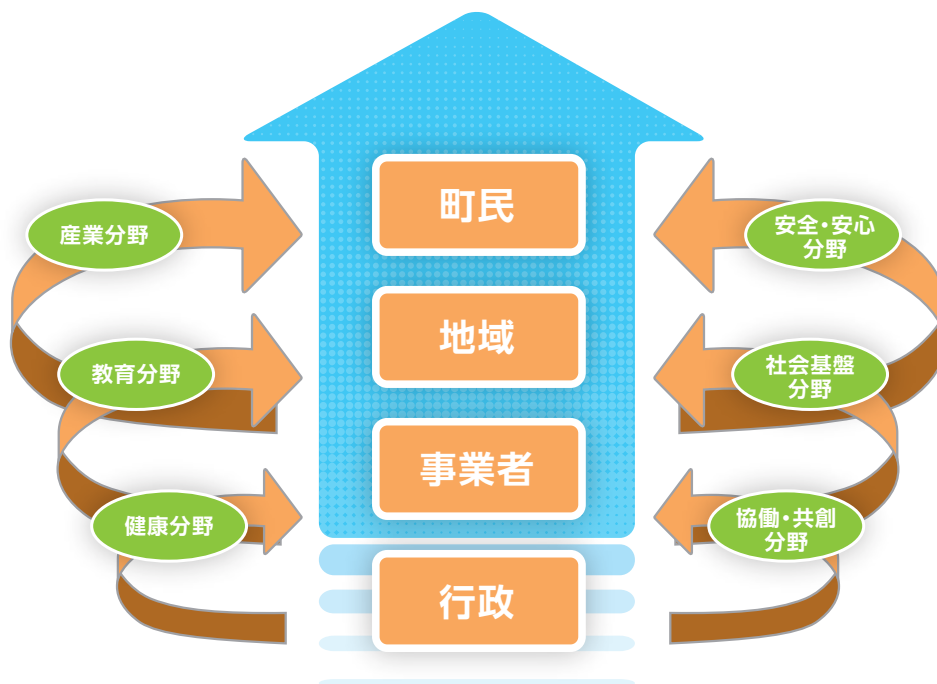
この計画をもとに、教育・福祉・防災・産業などの分野で具体的な計画や取組みを進め、多様な人や組織がそれぞれの役割を担いながら、町の活力を高め、好循環を生み出すことを目指します。

また、取組みは一度決めたら終わりではなく、進み具合を定期的に確認し、社会の変化や町の状況に合わせて見直しを行いながらよりよい形へと改善していきます。

つまりこの計画は、「みんなで一緒に玄海町の未来をつくっていくための道しるべ」です。

町民のみなさんとともに、一歩ずつ確実に前に進めていきます。

たくさんの「いっね!」を感じられる **玄海町**



多様なプレイヤーが各分野に対応し 町内の活性化と好循環を促す

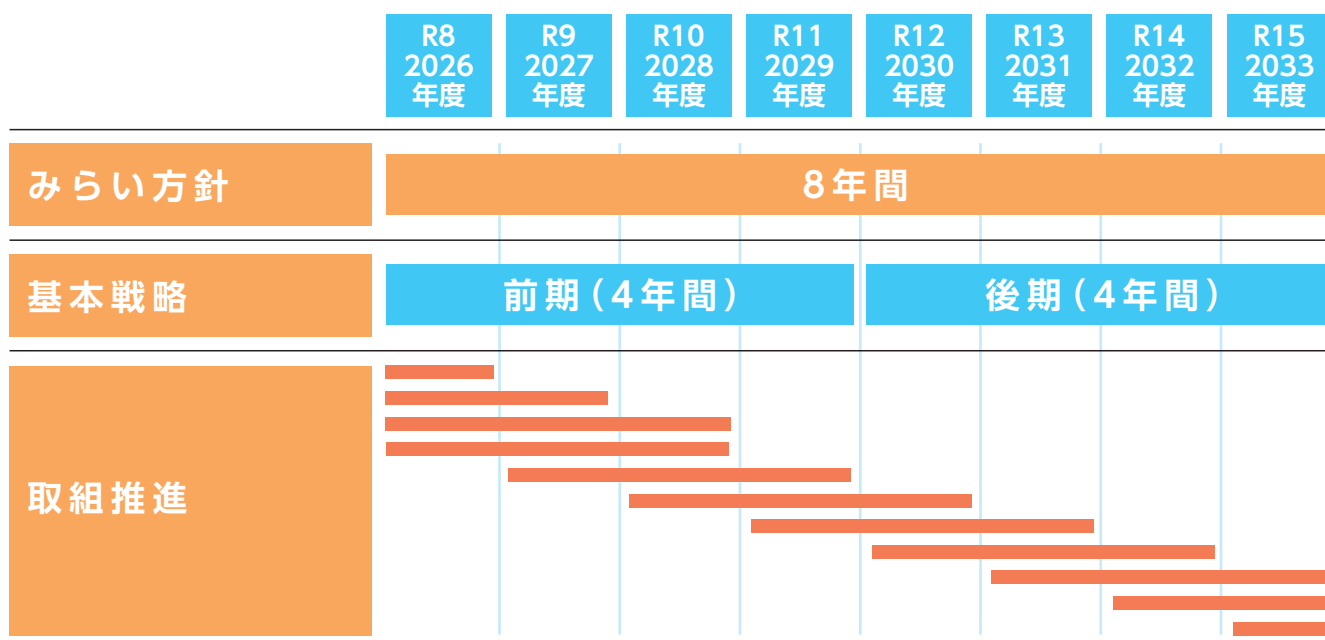
■玄海町みらい計画の構成

玄海町みらい計画は、みらい方針の考え方を踏まえて各取組み、計画を進めていきます。

みらい方針	将来目指す町の姿として「まちの将来ビジョン」を示し、町全体がまちづくりを進めるための大きな方向性を示します。
基本戦略	みらい方針で掲げる「まちの将来ビジョン」の実現に向け、分野ごとの目指す姿と、重点的に取り組む重要テーマ(重点施策の方向性)を示します。

■玄海町みらい計画の期間

玄海町みらい計画は、みらい方針が令和8(2026)年度から令和15(2033)年度までの8年間、基本戦略は前期が令和8(2026)年度から令和11(2029)年度までの4年間、後期が令和12(2030)年度から令和15(2033)年度までの4年間とします。



玄海町みらい計画の進捗状況の管理

玄海町みらい計画の成果や進捗を客観的に見ることができるよう、KGI(目標を達成するために最も重要な指標)を設定しました。これら指標の達成を意識しながら施策・事業に取り組み、実施計画に従って着実に事業を実行していきます(Do)。各指標に対する進捗状況や実績値は毎年度定点観測し、計画どおりに進まなかった場合はその要因を評価・検証します(Check)。さらに、どの施策を重要視すべきか、より効果的な事業を展開できないかなど、施策の重点化や事業の見直しを行い(Action)、計画に反映させます(Plan)。

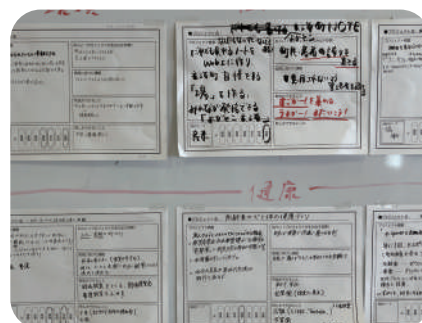


(1) 町民の声を幅広く取り入れた計画・戦略

玄海町で暮らす一人一人が「玄海町いいね!」と思えるまちづくりを進めていくにあたっては、玄海町にかかわるすべての人々が一丸となってまちづくりを進めていく必要があります。そのため、町の実態を把握するために町民や町内企業を対象としたアンケート調査やワークショップ等を実施し、計画や戦略に町民の声を反映するように努めました。

町民を対象としたワークショップでは、参加者同士がテーブルを囲み、町民視点での“町の幸せ”や“必要な取り組み”について考えました。付箋やペンを使いながら自由に意見を出し合い、町長も交えた意見交換会では、参加者から「それよかね!」といった声も聞こえる和やかな雰囲気でした。

玄海町で暮らす女性の視点からまちづくりを考えた女性部会では、子育てや働き方、地域コミュニティ等、日常生活に根ざした町の良いところや課題が語られ、参加者同士の共感や新たな気づきが生まれる活発な意見交換の場となりました。



(2) 4つの重要テーマ

町の現状や社会潮流を踏まえて、玄海町みらい計画では、4つの重要なテーマを整理しました。

1 女性や若者に選ばれる町に向け、『未来の子育て世帯』を増やす政策の加速化

婚姻率が高く、合計特殊出生率も一定数確保できていますが、出生数・若年女性が少ない状況です。若年女性の流出抑制と玄海町が居住先として選ばれることが必要です。

また、進学等で一度町外に転出してしまふ人が、町に戻ってきたくなる環境づくりが必要です。

町外への流出の原因は、「住まいの選択肢が少ない」ことも一因と考えられます。

加えて、「未来の子育て世帯」を増やすために、若者への支援を厚くし、転出抑制、U・Iターン獲得につなげることが必要です。

2 地域社会の活力と成長を支える



電気業の関連産業を中心に、大きな雇用を生む強みを活かし、労働者が住み、町内で消費する職住近接への誘導が必要です。

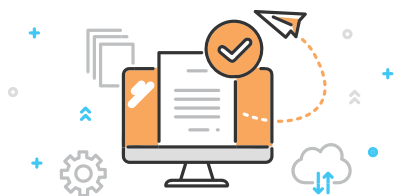
一方、電気業に頼り過ぎると社会情勢によって、大きな打撃を受ける可能性があるため、社会情勢に影響されにくい基幹産業である地場産業（農業・漁業等）の活性化を図り、地域産品で外貨を稼ぐことも必要です。また、農業の総生産額は町内産業において上位であり、地域経済循環の向上にとっても重要となります。

さらに新たな産業の開拓、基幹産業の発展および持続を通じて町外に転出した子どもたちが町に戻ってくるができる仕事づくりが必要です。

3 デジタルを武器とした地域課題解決

デジタル技術を活用した地域課題の解決が推進されている社会潮流を踏まえ、この「機会」を玄海町でも活かしていくことが大切です。

デジタルを活用することで、行政サービスの高度化、町民に使いやすい役場への変革、地域産業の人手不足の補完、働き方の変革、情報発信力・伝達力の強化などにつなげ、住民が便利で快適な生活を享受できる環境を作ることが必要です。



4 玄海町ならではの「Well-Being」の追求

家族や友人と笑顔で過ごせるとき、医療や福祉を安心して受けられるとき、自然と調和した暮らしを楽しめるとき——その瞬間「いいね!」と感じる状態こそが、玄海町におけるWell-Beingのかたちです。

玄海町で生活することで感じることのできる「いいね!」を増やすことは、移住・定住にも好影響になると考えます。また、「やりたいことを応援してくれる」ことも、まちづくりの原動力となり、今よりもっと「いいね!」となるまちにつながります。

町民・町職員・町内企業等と一緒に玄海町版Well-Being「いいね!」を追求し、実現に向けた取組が必要です。

(3) Well-Beingの考え方を取り入れた計画・戦略

町民一人ひとりの実感を大事にし、どのような状態になれば目標が達成されたと言えるのかをわかりやすく整理するとともに、計画の進捗状況がわかりやすく、取り組み意欲が掻き立てられる計画になるよう努めました。

Well-Beingの概要について

■ Well-Being(ウェルビーイング)とは

「Well-Being」とは、単に経済的な豊かさや物質的な充足を指すのではなく、人々が心身ともに健やかで、社会とのつながりを持ちながら、自分らしく幸せに生きられる状態を意味する概念です。世界保健機関(WHO)も健康の定義の中で「身体的、精神的、社会的に良好な状態」としてWell-Beingを重視しており、近年では国や自治体の政策形成においても重要な視点として位置付けられています。

■ なぜWell-Beingの考え方が必要なのか

わが国では、人口減少や高齢化の進展、地域経済の縮小など、まちづくりに大きな転換が迫られています。従来は経済成長や社会資本の整備など量的な指標を中心に政策が進められてきましたが、人口減少社会においては「量の拡大」よりも「質の向上」がより重要になります。

とりわけ、町民が「暮らしに満足している」「まちに誇りを持っている」「将来も住み続けたい」と感じることは、地域の持続性に直結します。玄海町においても、豊かな自然や地域資源、コミュニティの力を活かしつつ、町民の幸福度を高めることが新しい政策の方向性として求められています。

そのため、従来の経済・人口・財政指標に加えて、住民の生活実感を測るWell-Beingを評価に組み込むことが必要です。

■ どのように計画に反映するのか

計画や戦略に掲げる施策の効果を、従来の数値指標に加えてWell-Being指標を用いて検証します。これにより施策が実際に住民の暮らしや幸せの実感に結びついているかを明らかにします。具体的には、町民アンケートや行政データを用いてWell-Beingを定期的に測定し、その結果を計画の進捗評価などに反映します。これにより、「町民の声に根差したPDCAサイクル」を構築し、町民と行政が協働してより良いまちづくりを進める基盤とします。



Well-Beingの指標について

■Well-Being指標とは

Well-Being指標とは、町に住む人が「しあわせ」や「豊かさ」をどのくらい感じているかを数字やデータで可視化したものです。単に人口や経済の大きさだけではわからない、暮らしの質や満足度を確かめるために使われます。

■なぜ導入するのか

人口の増減やお金の動きといった数字だけでは「町民が安心して暮らせているか」「住んでいて誇りを感じられるか」等の町民がどのように感じているかまでは分かりません。そこで玄海町では、人口の多さだけを目標にするのではなく、町民のみなさんが「この町に住んでよかった」と感じられる暮らしを目指すために、この指標を導入します。

■どのように活用するのか

Well-Being指標は、町の計画の進み具合や成果を確かめる「ものさし」として活用します。具体的には、住民アンケートの結果を参考に、次の施策や事業に生かしていくことで、「数字の目標」だけでなく「町民のしあわせ実感の向上」を大切にしまちづくりを進めていきます。

■Well-Being指標における評価方法

玄海町みらい計画の進捗や成果は、このWell-Being指標を用いて評価します。

具体的には、定期的に住民アンケートなどを実施し、各要素に関する満足度や重要度を測定します。その結果をもとに、政策の効果や改善の方向性を把握し、次の施策につなげていきます。

また、人口動態といった従来のデータも組み合わせることで、住民の実感と客観的な現状の両面から総合的に評価する仕組みとします。これにより、単なる「数値目標の達成」だけでなく「町民のしあわせ実感の向上」という両方の視点から成果を測ります。



Well-Being指標の因子群とカテゴリー

「Well-Being指標は、町の暮らしやすさを多角的に把握するために、複数の分野で構成されています。例えば、健康、仕事や生活の安定、教育や学び、地域の絆、自然環境や安心・安全といった視点を取り入れています。

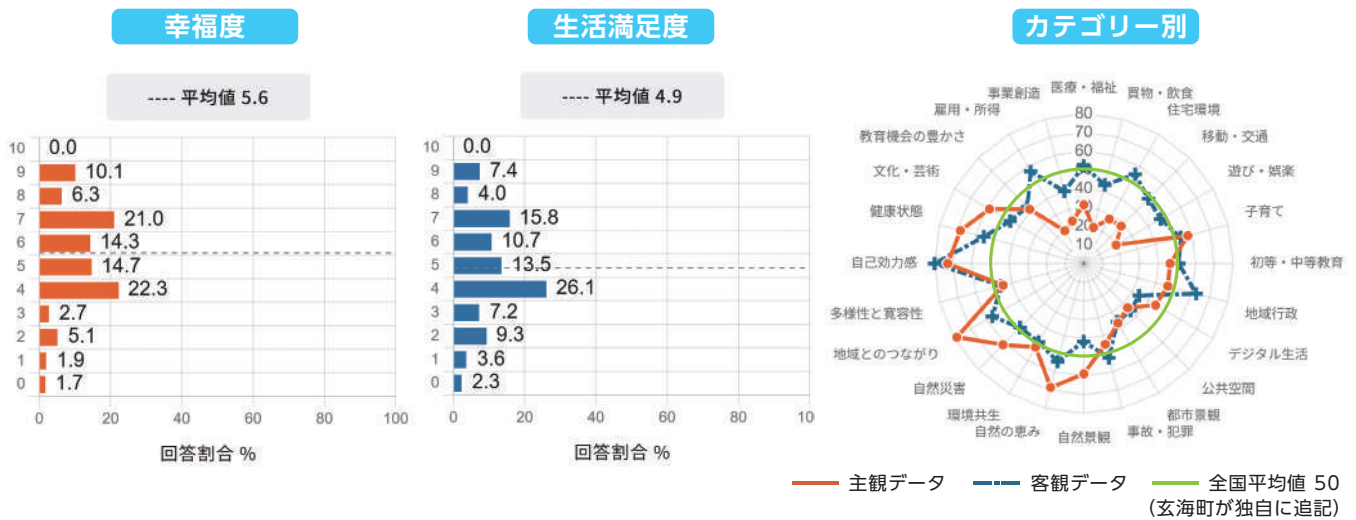
こうして分けていくことで、町民の暮らしを細かく見える化でき、課題や良いところが分かりやすくなります。

Well-Being指標は、地域における幸福度・生活満足度を計る4つの設問と、3つの因子群(“生活環境”、“地域の人間関係”、“自分らしい生き方”)から構成され、因子群は合計24のカテゴリーに細分化されます。

Well-Being指標の全体構成

町の政策とその政策の効果として現れる町民の幸福感を結びます。主観指標と客観指標を同じ因子構成とすることで主観と客観の紐づけを簡素化し、因子間の関連から注目すべき因子を抽出できます。

アンケート調査の平均値を幸福度と生活満足度のスコアとし、主観指標のスコアは、アンケート調査および全国のスコアを用いて測定し、客観指標はオープンデータおよび全国のスコアを用いて偏差値(平均50)として測定します。



出典: 2024年度版(令和6年度版) Well-Being個別調査_佐賀玄海町



主観（ウェルビーイング）評価指標 ～ 全50問

地域における幸福度・生活満足度（4）

- 現在、あなたはどの程度幸せですか？
- 現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？
- 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。
- 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う

生活環境（16）

- 医療・福祉（2）**
 - 医療機関が充実している
 - 介護・福祉施設のサービスが受けやすい
- 買物・飲食（2）**
 - 日常の買い物に全く不便がない
 - 飲食を楽しめる場所が充実している
- 住宅環境（3）**
 - 自宅には、心地よい居場所がある
 - 【逆】自宅の周辺では、騒音に悩まされている
 - 適度な費用で住居を確保できる
- 移動・交通（1）**
 - 公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる
- 遊び・娯楽（1）**
 - 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある
- 子育て（2）**
 - 子育て支援・補助が手厚い
 - 子どもたちがいきいきと暮らせる
- 初等・中等教育（2）**
 - 教育環境（小中学校）が整っている
 - 通学しやすい場所に学校がある
- 地域行政（2）**
 - 地域の行政は、地域のことを真剣に考えている
 - 公共施設は使い勝手良く便利である
- デジタル生活（2）**
 - 行政サービスのデジタル化が進んでいる
 - 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい
- 公共空間（2）**
 - 地域の雰囲気は、自分にとって心地よい
 - まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある
- 都市景観（1）**
 - 自慢できる都市景観がある
- 事故・犯罪（2）**
 - 防犯対策（交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安が良い
 - 歩道や信号が整備されていて安心である
- 自然景観（1）**
 - 自慢できる自然景観がある
- 自然の恵み（2）**
 - 身近に自然を感じることができる
 - 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる
- 環境共生（1）**
 - リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである
- 自然災害（1）**
 - 暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている。

地域の人間関係（2）

- 地域とのつながり（5）**
 - 私は同じ町内に住む人々を信頼している
 - 地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである
 - 困ったときに相談できる人が身近にいる
 - 町内の人が困っていたら手助けす
 - このまちに愛着を持っている
- 多様性と寛容性（5）**
 - 町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある
 - 私は見知らぬ他者であっても信頼する
 - 私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる
 - 女性が活躍しやすい
 - 若者が活躍しやすい

自分らしい生き方（6）

- 自己効力感（1）**
 - 自分のことを好ましく感じる
- 健康状態（2）**
 - 身体的に健康な状態である
 - 精神的に健康な状態である
- 文化・芸術（2）**
 - 文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい
 - 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい
- 教育機会の豊かさ（1）**
 - 学びたいことを学べる機会がある
- 雇用・所得（2）**
 - やりたい仕事を見つけやすい
 - 適切な収入を得るための機会がある
- 事業創造（1）**
 - 新たなことに挑戦・成長するための機会がある



玄海町 みらい計画

第2章

みらい方針

1 まちの将来ビジョン

たくさんの「いいね!」を感じられる 玄海町

まちづくりは行政だけが行うものではなく、町民のみなさん一人ひとりが大切な担い手です。地域の団体や事業者、専門機関など、さまざまな人たちが力を合わせて取り組むことで、玄海町の未来をつくっていきます。

玄海町は、町民一人ひとりが日々の暮らしの中で幸せを実感し、豊かな心で暮らせるまちを目指します。

現在は、身近にある美しい自然や新鮮でおいしい地域産品、積極的な子育て支援等のように既にたくさんの“魅力や優れているところ”があります。一方、働く場所の少なさや移動の不便さなどのように、「いいね!」を感じられない側面もあります。

特に、子どもたちが学校内だけでなく、地域の中でのびのびと学び、未来を拓く力を育てる機会を充実させていくことは、未来の玄海町だけでなく、子どもたちや子どもたちの親、地域で暮らす住民にとって重要だと考えています。

さらに、デジタル技術を活用し、誰もが快適で便利に暮らせる仕組みづくりや新たなチャレンジができる環境づくりを推進していくことで、より多くの人々が「玄海町に住みたい!」と思う魅力的なまちづくりを進めていきます。

そして、経済的な豊かさだけでなく、健康や人とのつながり、生きがいを大切にする「Well-Being(地域幸福度)」の視点から、日々の暮らしの中にある「いいね!」を認識すること、集めること、作ること、広めること、維持することに取り組めます。



2 分野連携による将来ビジョンの実現

まちの将来ビジョンの実現に向けて、4つの重要テーマを基に各分野が連携しながら取組みを進めていきます。

まちの将来ビジョン

たくさんの「いね！」を感じられる **玄海町**

重要テーマ

女性や若者に
選ばれる町に向け、
「未来の子育て世帯」を
増やす政策の加速化

地域社会の
活力と成長を
支える

デジタルを
武器とした
地域課題解決

玄海町ならではの
「Well-Being」の
追及

各分野が連携

産業

やりたい仕事に就けて、
地域経済の活性化と
成長を支える
地場産業が
発展している

教育

人生を豊かに
過ごせる機会が多く、
いきいきしている
子どもや大人が多い

健康

支え合いの中で、
心も身体もはつらつで、
いきいきと暮らす
人が多い

安全・安心

みんなの協力・行動で
リスクを遠ざけ、
自然と共にある
安全・安心な暮らしが
送れている

社会基盤

社会資源
(インフラ・土地・住宅)を
有効に活用・更新し、
心地のいい生活が
送れている

協働・共創

未来に向けて賢く投資し、
みんなの個性や特性が
活かされながら、
地域課題の解決が
進んでいる

土地利用方針

3

KGI(目標を達成するために最も重要な指標)

■玄海町におけるWell-Being

玄海町では「Well-Being」をより親しみやすく「いいね!」という表現に置き換えました。

家族や友人と笑顔で過ごせるとき、医療や福祉を安心して受けられるとき、自然と調和した暮らしを楽しめるとき等、その瞬間に感じる「いいね!」こそが、玄海町におけるWell-Beingのかたちです。

■本計画での展開

こうした考え方を踏まえ、活力があり、住み続けられる玄海町を実現するためには、町が持つポテンシャルを十分に活用し、“いいね!”の好循環を加速化していくことが必要となります。また、若者から選ばれる地域となるべく、玄海町の強みを生かすとともにデジタル技術を活用しながら、若者の流出抑制やU・Iターン獲得につなげていきます。人口減少をはじめとした社会課題の解決に向け、デジタルのチカラで地域の生産性や利便性を高め、「たくさんの『いいね!』を感じられる玄海町」に向かって、持続可能なまちづくりを行政、地域、民間等が一丸となって進めていきます。

■KGI / まちの将来ビジョンを実現させるために目指す最上位の成果

まちの将来ビジョンの実現度合いを測るための指標として、KGI(目標を達成するために最も重要な指標)を設定します。様々な分野にまたがるすべての町の取組みが関連しながらKGIの向上、まちの将来ビジョンの実現を目指します。

KGI

項目名	現状値	目標値 令和15(2033)年度
総人口	4,700人	4,629人
20~40代人口	1,334人	1,315人
合計特殊出生率	1.98	2.1

KGI(Well-Being指標)

項目名	現状値 令和8(2026)年度	目標値 令和15(2033)年度
地域における幸福度	5.6	6.49
地域における生活満足度	4.9	6.48

KGI(目標を達成するために最も重要な指標)の解説

項目名	解説
総人口	<p>人口は、町の持続可能性を左右する基盤となります。人口は地域社会の活力や経済活動、福祉サービスの維持に直結し、将来の世代へ町をつないでいくための前提条件となります。そのため、人口の動向を最も重要な指標として位置付け、本計画のあらゆる施策の成果を集約的に示す指標として位置付けています。</p> <p>・基準値 2025.12.31時点(実人口数) ・目標値 令和15(2033)年度に目指す数値 玄海町人口ビジョン(改訂版)の目標値から算定</p>
20～40代人口	<p>20～40代は、結婚・子育て・就労の中心を担い、地域社会の将来を支える中核的な世代です。しかし玄海町では、この世代の町外流出が続き、地域の活力低下や人口減少に直結しています。そのため、この世代の人口を維持・増加させることを目標とし、住まいや働く場の確保、子育て支援等の施策を通じて、移住・定住を目指しています。</p> <p>・基準値 2025.12.31時点(実人口数) ・目標値 令和15(2033)年度に目指す数値 基準値の年齢構成比と同等の比率を維持したときの人口</p>
合計特殊出生率	<p>少子高齢化が進む中で、将来の人口構造を安定させるには、子どもを安心して産み育てられる町であることが欠かせません。そこで合計特殊出生率を指標として位置付け、子育て世帯の経済的負担軽減や教育・保育サービスの充実等により、「子育て世代に選ばれる町」をめざします。</p> <p>・基準値 第2期玄海町まち・ひと・しごと創生総合戦略KPI実績平均値 ・目標値 第2期玄海町まち・ひと・しごと創生総合戦略KPI目標値</p>
地域における幸福度	<p>玄海町では、住民の幸福(Well-Being)を「いいね!」という表現で示しており、町の特色として「小さな幸せの積み重ね」を大切にしています。人と人とのつながり、挑戦できる環境、自然と共にある暮らしなど、日々の中で「いいね!」と感じられる瞬間が増えることは、町全体の活力や魅力の源になります。そのため、幸福度の向上を指標化し、住民が心から「暮らしてよかった」と思える地域づくりを目指しています。</p> <p>・基準値 2024年度版Well-Being個別調査結果 ・目標値 2024年度版Well-Being全国平均値</p>
地域における生活満足度	<p>人口の維持や定住促進のためには、単に住み続けるだけでなく「ここで暮らすのが快適で安心」と住民が感じる事が不可欠です。玄海町では医療や交通、買い物環境など日常生活に関わる課題がある一方、デジタル化や地域コミュニティの強化によって改善の余地があります。住民が日常の中で利便性や安心感を実感できるようにすることを成果の指標として位置付けています。</p> <p>・基準値 2024年度版Well-Being個別調査結果 ・目標値 2024年度版Well-Being全国平均値</p>

4 土地利用方針

玄海町は海、森林、農地など多様な自然環境に恵まれており、このような豊かな自然環境を維持・保全し、次世代へ継承していくことが求められます。

そのため、多様な自然環境の維持・保全、良好な住環境の形成、産業活動の活発化、観光と交流の推進などに資することを土地利用のコンセプトとします。

1 自然環境保全区域

玄海国定公園に指定されている区域については、自然環境や景観の保全を図るとともに、自然を生かしたレクリエーション地域としての活用を図ります。



3 農業区域

優良な農用地は、農地の流動化・集約化を図りつつ、重要な生産基盤として保全するとともに、生産力向上のための必要な施策を進めます。



2 森林保全区域



保安林指定地域やまとまった森林を含む区域については、適切な維持管理を行い、森林の多面的機能(景観向上、防風、水源かん養など)が高度に発揮できる状態を維持するとともに、環境教育や自然とのふれあいの場として活用を図ります。

4 住宅・宅地・市街地域



既存集落を中心に、移動手手段の確保や買い物弱者への対策など生活基盤及び快適な生活環境の整備を図ります。

また、福祉関連施設を整備し、教育施設跡地については、住民の活動・交流の拠点づくりも含め、有効利用を行います。

さらに、商工業施設などの適正配置を図るとともに、産業立地の可能性を検討します。

5 多様性と連携による地域づくり

農村、漁村、市街などの地域間相互のネットワークにより、人・モノ・情報の交流を活発化させ、これらの交流が新たな価値創造につながり、さらには賑わいを創出することにもつながっていくため、各地域が自らの資源に磨きをかけて、新しい成長エンジンになるよう、地域の連携をより一層図っていきます。



玄海町 みらい計画

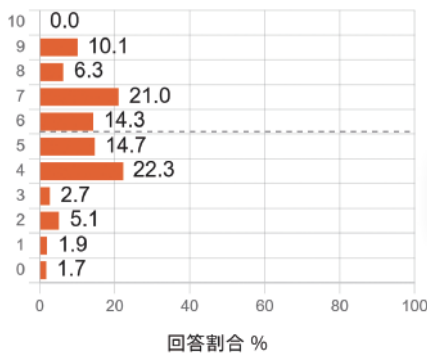
第3章

基本戦略

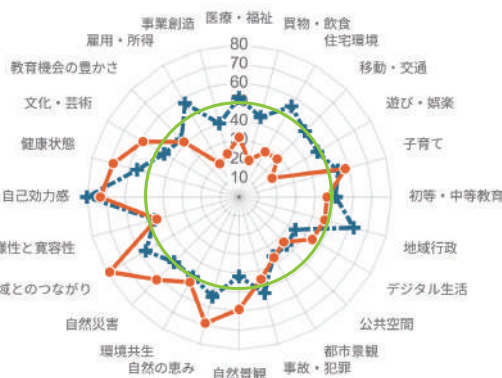
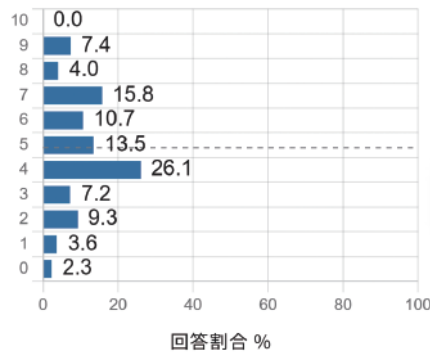
KGI (Well-being 指標 (主観指標)) の見方

玄海町では、「幸福度」や「生活満足度」の向上を意識して取組みを進めていきます。各分野で取り組む政策や事業は、「たくさんの「いいね!」を感じられる玄海町」につながっています。

幸福度 --- 玄海町平均値(現状値) **5.6**



生活満足度 --- 玄海町平均値(現状値) **4.9**



カテゴリー別

— 主観データ — 客観データ — 全国平均値 50 (玄海町が独自に追記)

※グラフ中に示す水色の矢印(いいね!)の位置はイメージです。

出典: 2024年度版(令和6年度版) Well-Being個別調査_佐賀玄海町



Well-Being指標は、全国の自治体の平均を50とした偏差値で表されています。「偏差値」とは、玄海町の状況がどのあたりに位置しているかをわかりやすく示した“ものさし”です。

数値が50より高ければ全国平均より高い状態、50より低ければ改善の余地がある状態を示します。

偏差値	状況の目安	意味合い	目標値設定の考え方
60以上	強みがある分野	全国的にも高い水準で、まちの良さが表れている	現状維持 維持
50前後	全国平均的な分野	多くの自治体と同じくらいの水準	現状値+3 +3
40以下	のびしろのある分野	取り組むことで、暮らしの質がより高まる	現状値+5 +5
30以下	改善が必要な分野	暮らしへの影響が大きく、重点的な対策が必要	現状値+10 +10

※この数値は「良い・悪い」を決めるものではなく、まちの特徴やのびしろを知るための参考情報です。

※この指標を使う目的は、「他の町より上か下か」を競うことではなく、玄海町がどのくらい幸せに近づいているかを見える化することです。

1

産業分野

■ 目指す姿

やりたい仕事に就けて、 地域経済の活性化と成長を支える地場産業が発展している

地域で暮らす人々が自らの希望に沿った仕事に就ける環境を整えることは、玄海町の持続的な発展に欠かせません。農林水産業や建設業、サービス業等の地場産業は、自然や文化に根ざした強みを持ち、地域経済の基盤を支えています。これらを次世代につなぎつつ、新しい価値を生み出すことで、地域経済の活性化と成長、新たな雇用、所得向上の実現を目指します。



■ KGI (Well-being 指標 (主観指標))

変化の目安となる基準値

カテゴリー		基準値 令和8(2026)年度	目標値 令和11(2029)年度
雇用・所得	<ul style="list-style-type: none"> ● やりたい仕事を見つけやすい ● 適切な収入を得るための機会がある 	20.3	+10 → 30.3
事業創造	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな事に挑戦・成長するための機会がある 	23.6	+10 → 33.6
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て支援・補助が手厚い 	57.8	+3 → 60.8

※基準値は、2024 年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査(玄海町)指標の偏差値を示し、目標値は、今後目指すべき偏差値を示している。

■ 関連する重要テーマ別の戦略

重要テーマ	重要テーマが目指す姿
女性や若者に 選ばれる町	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域で安心して働き、暮らしと子育てを両立できる就労環境の広がりを目指す。 ● 若い世代が戻りたい・住みたいと感じられる産業構造の形成を目指す。
地域社会の 活力と成長	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気業の強みを活かしつつ、基幹産業を主とした各種産業の可能性を引き出し、地域内での循環を目指す。
デジタルの 活用	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル技術の活用により、生産性や販路の拡大を目指す。 ● 地域資源が新たな価値として発信される産業構造を目指す。
Well-beingの 追求	<ul style="list-style-type: none"> ● 町民が誇りを持って産業に関わり、働く喜びと地域貢献を両立できる仕組みを目指す。

2 教育分野

目指す姿

人生を豊かに過ごせる機会が多く、いきいきしている子どもや大人が多い

子どもから大人まで、誰もが学び、挑戦する機会を持つことは、人生を豊かに過ごす基盤となります。子どもがいきいきと育つ環境を目指すとともに、大人も学び直しや地域活動などの多様な学びを通じて成長し続けられる環境を目指します。また、デジタル教育や地域における体験学習などを通じた学びの循環が町全体の活力を育むことを目指します。



KGI (Well-being 指標 (主観指標))

変化の目安となる基準値

カテゴリー		基準値 令和8(2026)年度	目標値 令和11(2029)年度
教育機会の豊かさ	● 学びたいことを学べる機会がある	41.0	+5 → 46.0
初等・中等教育	● 教育環境(小中高校)が整っている ● 通学しやすい場所に学校がある	46.3	+5 → 51.3
子育て	● 子どもたちがいきいきと暮らせる	57.8	+3 → 60.8

※基準値は、2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査(玄海町)指標の偏差値を示し、目標値は、今後目指すべき偏差値を示している。

関連する重要テーマ別の戦略

重要テーマ	重要テーマが目指す姿
女性や若者に選ばれる町	● 子どもや若者が将来の可能性を広げ、町外で学んだ後も玄海町に戻りたいと感じられる教育環境を目指す。
デジタルの活用	● デジタル教育の広がりによって、子どもも大人も学びの選択肢が増えている状態を目指す。 ● 地域全体が新しい知識や技術を活かせる環境を目指す。
Well-beingの追求	● 子どもが夢を描き、大人も学び続けられる環境を目指す。 ● 学びを通じた自己実現によって、幸福感が得られる状態を目指す。

3 健康分野

■目指す姿

支え合いの中で、
心も身体もはつらつで、いきいきと暮らす人が多い

町民一人ひとりが心身ともに健やかであることは、地域全体の力強さにつながります。支え合いのつながりの中で、病気を予防し、健康寿命を延ばす取り組みを進めることで、誰もが安心していきいきと暮らせるまちを実現します。



■KGI (Well-being 指標 (主観指標))

変化の目安となる基準値

カテゴリー		基準値 令和8(2026)年度	目標値 令和11(2029)年度
健康状態	● 身体的、精神的に健康な状態である	68.4 維持	68.4
医療・福祉	● 医療機関が充実している ● 介護・福祉施設のサービスが受けやすい	31.4 +10	41.4
デジタル生活	● 仕事や日常生活の場で デジタルサービスを利用しやすい	44.5 +5	49.5

※基準値は、2024 年度版(令和6 年度版) Well-Being 個別調査(玄海町)指標の偏差値を示し、目標値は、今後目指すべき偏差値を示している。

■関連する重要テーマ別の戦略

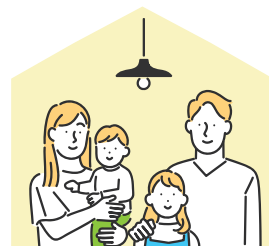
重要テーマ	重要テーマが目指す姿
デジタルの活用	● 医療や介護にデジタルが取り入れられ、町民自身が効率的で簡単に健康管理が行える環境を目指す。
Well-beingの追求	● 誰もが健康でいきいきと暮らせること自体が幸福感となり、地域の大きな価値として共有されている状態を目指す。

4 安全・安心分野

■目指す姿

みんなの協力・行動でリスクを遠ざけ、
自然と共にある安全・安心な暮らしが送れている

玄海町は自然と共に生きるまちであり、同時に災害や事故への備えも重要です。町民の協力や行動を通じてリスクを遠ざけ、誰もが安心して暮らせる地域社会を築きます。安全と安心が、未来への希望を支える基盤となります。



■KGI (Well-being 指標 (主観指標))

変化の目安となる基準値

カテゴリー		基準値 令和8(2026)年度	目標値 令和11(2029)年度
自然災害	● 防災対策がしっかりしている	61.3 維持	61.3
事故・犯罪	● 防犯対策(交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等)が整っており、治安がよい ● 歩道や信号が整備されていて安心である	44.6 +5	49.6
地域とのつながり	● 同じ町内(集落)に住む人たちを信頼している ● 困ったときに相談できる人が身近にいる	78.6 維持	78.6

※基準値は、2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査(玄海町)指標の偏差値を示し、目標値は、今後目指すべき偏差値を示している。

■関連する重要テーマ別の戦略

重要テーマ	重要テーマが目指す姿
女性や若者に選ばれる町	● 子育て世帯が安心して暮らせる防災・防犯体制が整い、若年層にとって選ばれるまちを目指す。
デジタルの活用	● デジタル技術を活かした見守りや情報共有が進み、リスクを早期に察知できる安心の仕組みを目指す。
Well-beingの追求	● 自然と共生しつつ、安心できる暮らしが確保されており、その穏やかさが幸福感につながっている状態を目指す。

5 社会基盤分野

目指す姿

社会資源(インフラ・土地・住宅)を有効に活用・更新し、
心地のいい生活が送れている

道路や住宅、公共施設といった社会資源は、暮らしの質を大きく左右します。官民連携の下、限られた資源を有効に活用し、更新を重ねながら、住みやすく心地よい環境を形成していきます。快適で利便性の高い生活基盤が、町民の暮らしを支えます。



変化の目安となる基準値

KGI (Well-being 指標 (主観指標))

カテゴリー		基準値 令和8(2026)年度	目標値 令和11(2029)年度
移動・交通	● 公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	28.3	+10 → 38.3
住宅環境	● 自宅には、心地のいい居場所がある ● 適度な費用で住居を確保できる	27.4	+10 → 37.4
環境共生	● リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである	51.6	+3 → 54.6
地域行政	● 公共施設は使い勝手がよく便利である	46.6	+5 → 51.6

※基準値は、2024 年度版(令和 6 年度版) Well-Being 個別調査(玄海町)指標の偏差値を示し、目標値は、今後目指すべき偏差値を示している。

関連する重要テーマ別の戦略

重要テーマ	重要テーマが目指す姿
女性や若者に選ばれる町	● 若者や子育て世帯が暮らしやすい住環境の形成を目指す。 ● ライフスタイルに応じた多様な住まいの選択肢が確保されている状態を目指す。
地域社会の活力と成長	● 交通や生活基盤が適切に維持されている状態を目指す。 ● 町内で働き暮らす循環を支える仕組みが整っている状態を目指す。
デジタルの活用	● 社会基盤にデジタルが取り入れられ、効率的かつ快適に生活できる環境を目指す。
Well-beingの追求	● 心地よい住環境や利便性のある社会基盤が、町民の暮らしの満足度を高め、住み続けたいと思える要素となっている状態を目指す。

6 協働・共創分野

■目指す姿

未来に向けて賢く投資し、みんなの個性や特性が活かされながら、地域課題の解決が進んでいる

地域が直面する課題は多様であり、その解決には行政だけでなく町民や企業、団体の力が欠かせません。未来に向けて賢く投資し、個性や特性を生かし合うことで、町全体で課題解決を進めます。協働・共創の取組が、持続可能な地域づくりを後押しします。



■KGI (Well-being 指標 (主観指標))

変化の目安となる基準値

カテゴリー	基準値 令和8(2026)年度	目標値 令和11(2029)年度
地域とのつながり <ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動(自治会・地域行事・防災活動等)への町民参加が盛んである ● 町内(集落)の人が困っていたら手助けをする 	78.6 維持	78.6
多様性と寛容性 <ul style="list-style-type: none"> ● 町内(集落)には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある ● 女性が活躍しやすい雰囲気がある ● 若者が活躍しやすい雰囲気がある 	44.8 +5	49.8
公共空間 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の雰囲気は、自分にとって心地よい 	33.3 +10	43.3
地域行政 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の行政は地域のことを、真剣に考えている 	46.6 +5	51.6

※基準値は、2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査(玄海町)指標の偏差値を示し、目標値は、今後目指すべき偏差値を示している。

■関連する重要テーマ別の戦略

重要テーマ	重要テーマが目指す姿
女性や若者に選ばれる町	● 地域全体で女性や若者を支え合い、安心して子育てや生活を営める雰囲気の醸成を目指す。
デジタルの活用	● デジタルを共に使いこなす力が町内に広がり、協働・共創の形が進化し、地域運営の効率性や透明性の高まりを目指す。
Well-beingの追求	● 一人ひとりの個性や特性が尊重され、協働・共創を通じて「ともに歩む喜び」が共有される地域文化を目指す。

玄海町 みらい計画

資料編

玄海町総合計画審議会からの答申

令和7年11月28日

玄海町長 脇山 伸太郎 様

玄海町総合計画審議会
会長 宮崎 吉輝

第六次玄海町総合計画について（答申）

第六次玄海町総合計画（玄海町みらい計画）（案）については、慎重に審議した結果、別紙のとおり答申します。

なお、本審議会の意見を十分に尊重し、町民等との情報共有・参加・協働を一層推進するとともに計画の目標や施策の方向性を広く周知し、人口減少など社会情勢の変化を踏まえ、町が一体となって取り組まれるよう要望します。

玄海町みらい計画策定経過

年	月日	内容
2024年	10月28日～11月10日	町内企業アンケート（従業員向け、経営者向け）
	10月20日	第1回まちづくりワークショップ
	12月8日	第2回まちづくりワークショップ
	12月19日～27日	暮らしの実感アンケート（18歳以上向け、13～17歳向け）
2025年	1月24日	第1回庁内検討委員会、第1回女性部会
	2月4日	第1回策定委員会
	2月15日	第3回まちづくりワークショップ
	3月21日	第2回策定委員会
	3月25日	第2回庁内検討委員会、第2回女性部会、町長ヒアリング
	8月4日	第3回庁内検討委員会
	8月5、6、8日	各課ヒアリング
	10月8日	第4回庁内検討委員会
	10月14日	第3回策定委員会
	11月28日	答申
	11月29日～12月31日	意見公募（パブリックコメント）

玄海町みらい計画策定委員会名簿

総合計画審議委員	総合戦略推進委員	職名	氏名
学識経験を有する者	-	町議会議長	宮崎 吉輝
	教育関係者	玄海みらい学園	田邊 綾
	産業関係者	唐津上場商工会	牧原 康
	金融関係者	金融関係者	吉富 茂
	産業関係者	報道関係者	中村 隆
関係行政機関の職員	その他推進委員会の運営上必要と認められる者	社会福祉協議会（事務局長）	渡邊 藤江
関係団体の役職員	産業関係者	唐津農協協同組合玄海支所	日高 敏雅
	産業関係者	外津漁業協同組合	福原 一郎
	その他推進委員会の運営上必要と認められる者	玄海町みんなの地域商社（代表理事）	西 亘
	その他推進委員会の運営上必要と認められる者	自治会（田代区長）	岡本 周治郎

玄海町みらい計画庁内検討委員会名簿

所属	役職	氏名
教育委員会	教育長	岩崎一男
総務課	課長	渡辺晴彦
防災安全課	課長	日高大助
企画商工課（事務局）	課長	熊本秀樹
住民課兼会計管理者	課長	中山昌直
生活環境課	課長	山口三成
福祉・介護課	課長	中山ふみ
こども・ほけん課	課長	黒田佐織
農林水産課	課長	鶴田豊明
まちづくり課	課長	鈴木博之
議会事務局	局長	中村大造
教育委員会	教育長	岩崎一男
教育委員会	課長	加納晴美

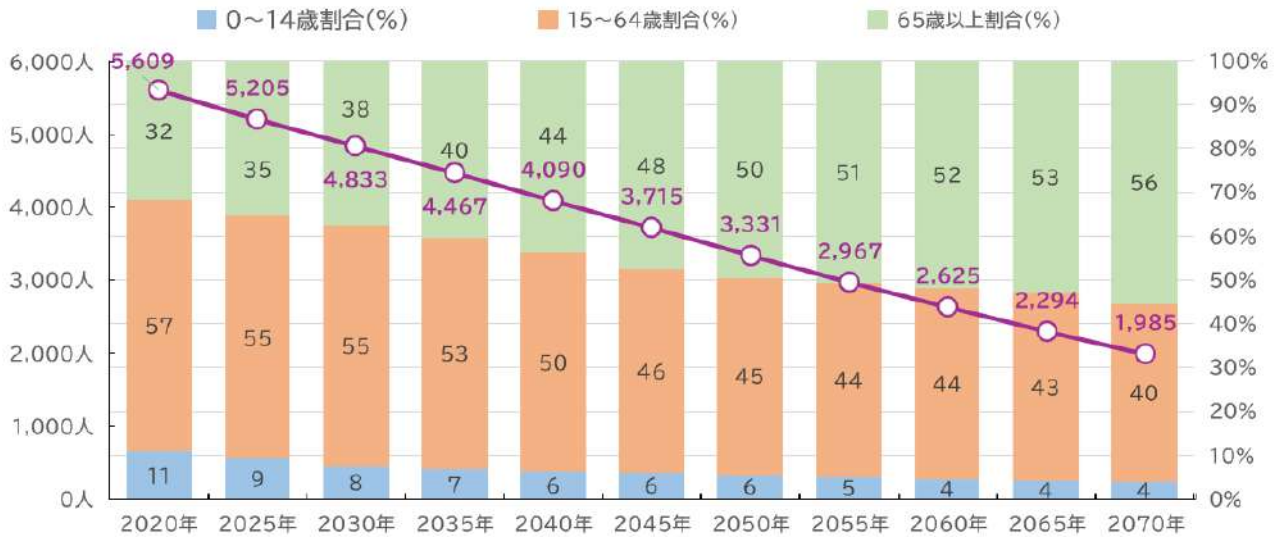
玄海町を取り巻く状況

■人口動態

玄海町の人口動態をみると、少子高齢化が進み、人口が右肩下がり減少の見込みです。20年後(2045年)は4,000人を下回り、生産年齢人口1人で高齢者1.03人を支えることとなります。

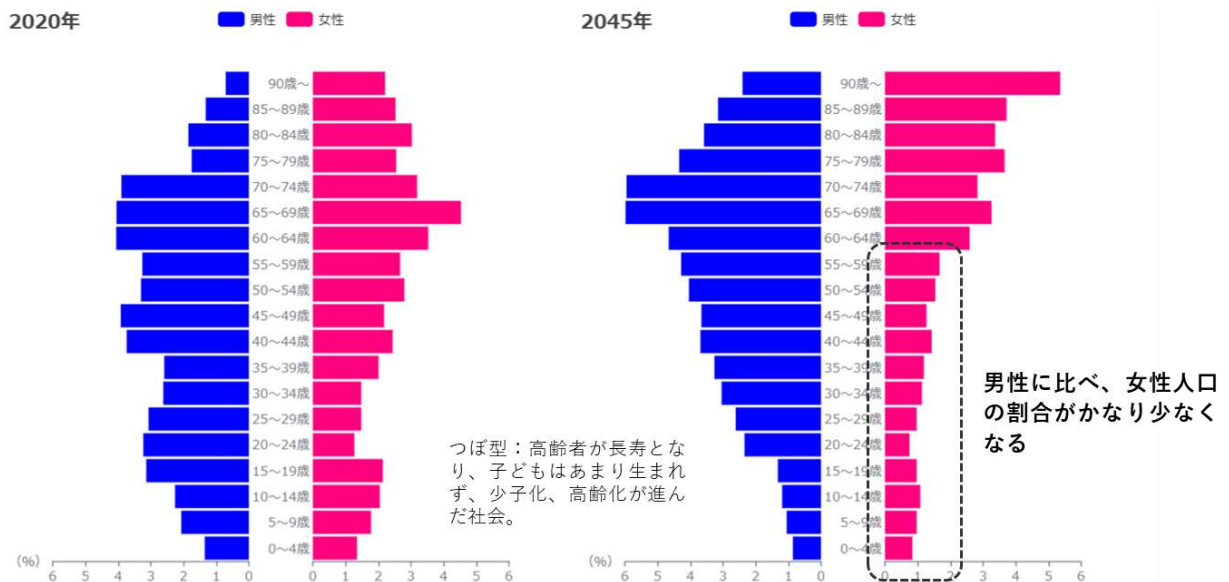
また、人口ピラミッドをみると、『つぼ型』に近づき、特に年少人口・生産年齢人口にあたる女性人口の割合がより減少する見込みです。

[玄海町の将来人口推計]



【データ】 将来人口推計のためのワークシート (令和6年6月版)
 内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 内閣府地方創生推進室

[玄海町の将来人口推計 (人口ピラミッド)]



【データ】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

■住まいの状況

民間の賃貸情報サイトをみると玄海町内の物件情報が掲載されておらず、住宅を探すことが困難な状況です。

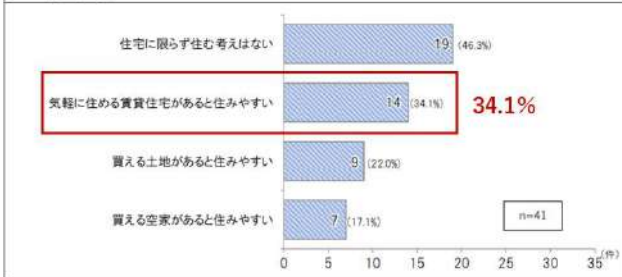
『玄海町第6次総合計画にかかる企業アンケート【従業員向け】』で町民以外の回答をみると、玄海町での住まいや移住に関しては、「気軽に住める賃貸住宅や住宅支援あるとよい」や「住宅支援（賃貸住宅や空き家の整備等）」の回答が多い結果となっています。

また、玄海町で働き続けるために必要な支援として、「住環境の整備」の回答が多い結果となっています。

[玄海町第6次総合計画にかかる企業アンケート【従業員向け】]

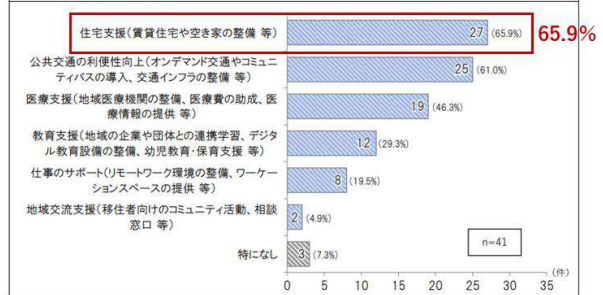
問 13. (問 8. で「2.唐津市」「3.その他佐賀県内」「4.その他県外」を選択した方のみご回答ください。) 玄海町は移住定住支援を進めています。住まいの確保にあたり、あなたの考えを教えてください。(該当すべてに○印)

- 「住宅に限らず住む考えはない」が19件(46.3%)と最も高い。次いで「気軽に住める賃貸住宅があると住みやすい」が14件(34.1%)、「買える土地があると住みやすい」が9件(22.0%)となっている。



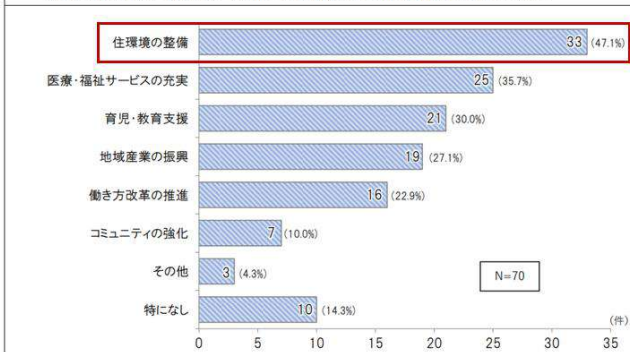
問 15. (問 8. で「2.唐津市」「3.その他佐賀県内」「4.その他県外」を選択した方のみご回答ください。) 仮にあなたが玄海町に移住する場合、どのような支援を望みますか。(3つまで○印)

- 「住宅支援（賃貸住宅や空き家の整備等）」が27件(65.9%)と最も多い。次いで「5.公共交通の利便性向上（オンデマンド交通やコミュニティバスの導入、交通インフラの整備等）」が25件(61.0%)、「医療支援（地域医療機関の整備、医療費の助成、医療情報の提供等）」が19件(46.3%)となっている。



問 7. 玄海町で働き続けるために必要な支援はありますか。(3つまで○印)

- 「住環境の整備」が33件(47.1%)と半数が選択しており最も高い。次いで「医療・福祉サービスの充実」が25件(35.7%)、「育児・教育支援」が21件(30.0%)となっている。



■社会潮流

デジタル田園都市国家構想総合戦略では、構想実現に向けた取組方針として、「デジタルの力を活用した地方の社会課題解決」、「構想を支えるハード・ソフトのデジタル基盤整備」、「デジタル人材の育成・確保」、「誰一人取り残されないための取り組み」を掲げており、デジタル技術を活用して地域課題の解決に取り組むことを示しています。

また、地方創生 2.0 では、基本構想の 5 本柱として、「①安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生」、「②東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散」、「③付加価値創出型の新しい地方経済の創生」、「④デジタル・新技術の徹底活用」、「⑤「産官学金労言」の連携など、国民的な機運の向上」を掲げており、今後 10 年間集中的に取り組むことを示しています。

[デジタル田園都市国家構想総合戦略_構想実現に向けた取組方針]



デジタルの力を活用した地方の社会課題解決



構想を支えるハード・ソフトのデジタル基盤整備



デジタル人材の育成・確保



誰一人取り残されないための取り組み

[地方創生 2.0 の「基本的な考え方」概要]

◆地方創生2.0の基本構想の5本柱 ※考えられる各省の施策項目を列挙。基本構想に向けて具体化

○以下の5本柱に沿った政策体系を検討し、来年夏に、今後10年間集中的に取り組む基本構想を取りまとめる

①安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生

- 魅力ある働き方、職場づくり、人づくりを起点とした社会の変革により、楽しく働き、楽しく暮らせる場所として、「若者・女性にも選ばれる地方（＝楽しい地方）」をつくる
- 年齢を問わず誰もが安心して暮らせるよう、地域のコミュニティ、日常生活に不可欠なサービスを維持
- 災害から地方を守るための事前防災、危機管理

②東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散

- 分散型国づくりの観点から、企業や大学の地方分散や政府機関等の移転などに取り組む
- 地方への移住や企業移転、関係人口の増加など人の流れを創り、過度な東京一極集中の弊害を是正

③付加価値創出型の新しい地方経済の創生

- 農林水産業や観光産業を高付加価値化し、自然や文化・芸術など地域資源を最大活用した高付加価値型の産業・事業を創出
- 内外から地方への投融資促進
- 地方起点で成長し、ヒト・モノ・金・情報の流れをつくるエコシステムを形成

④デジタル・新技術の徹底活用

- ブロックチェーン、DX・GXの面的展開などデジタル・新技術を活用した付加価値創出など地方経済の活性化、オンライン診療、オンデマンド交通、ドローン配送や「情報格差ゼロ」の地方の創出など、地方におけるデジタルライフラインやサイバーセキュリティを含むデジタル基盤の構築を支援し、生活環境の改善につなげる
- デジタル技術の活用や地方の課題を起点とする規制・制度改革を大胆に進める

⑤「産官学金労言」の連携など、国民的な機運の向上

- 地域で知恵を出し合い、地域自らが考え、行動を起こすための合意形成に努める取組を進める
- 地方と都市の間で、また地域の内外で人材をシェアする流れをつくる

◆基本構想の策定に向けた国民的な議論の喚起

- 地方の現場をできるだけ訪問・視察し、意見交換を幅広く重ね、地方の意見を直接くみ取り、今後の施策に活かす
- 有識者会議でテーマごとに地方の現場で地方創生に取り組む関係者のヒアリングや現地視察を行い意見を直接くみ取る

玄海町みらい計画

玄海町 企画商工課

〒847-1421 佐賀県東松浦郡玄海町大字諸浦 348 番地

Tel : 0955-52-2112 Fax : 0955-52-3041

たくさんの
「いね!」を感じられる

玄海町